

富山県福光町

梅原胡摩堂遺跡

1998年3月

福光町教育委員会

序

福光町の東部に位置する北山田地区は山田川と大井川にはさまれた水田地帯ですが、東海北陸自動車道建設、県営ほ場整備事業の施工に伴う発掘調査等で、縄文時代から近世までの様々な遺跡が発見され、多くの歴史遺産が埋蔵されていることがわかりました。

今回の調査は、民間会社駐車場造成に先立つ梅原胡摩堂遺跡の発掘調査です。調査の結果、戦国時代の掘立柱建物、土坑、井戸、溝を検出し、それらに伴って、中世土師器、珠洲焼、青磁、白磁、越前、越中瀬戸などの遺物が出土しました。本書は、その調査結果をまとめたものです。郷土の歴史の解明や学術研究等に活用していただければ幸いです。

終りに、この調査の実施にあたり、福光産業株式会社・富山県埋蔵文化財センター・福光町シルバー人材センターを始め、地元住民の方々に多大なご協力を賜りましたことに、深く感謝を申し上げます。

平成10年3月

福光町教育委員会
教育長 石崎栄一

例　　言

1. 本書は、福光産業株式会社駐車場造成に先立つ、富山県福光町梅原胡摩堂遺跡の発掘調査概要である。調査は、平成8年度、9年度の2カ年に分けて行った。各年度の調査期間及び調査面積は次のとおりである。

平成8年（1996年） 8月19日～9月28日・300m²

平成9年（1997年） 4月20日～5月25日・330m²

2. 調査は、福光町教育委員会が実施した。

3. 調査事務局は福光町教育委員会生涯学習課におき、文化係長加藤仁が調査事務を担当し、生涯学習課長西村勝三が統括した。調査担当及び本書の執筆は生涯学習課主事佐藤型子が行った。

4. 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々の協力・助言があった。記して謝意を表する。

久々忠義・塩田明弘・太嶋勇・林敏三・安丸健治・吉田敏信（敬称略・五十音順）

5. 本書で使用した方位は真北である。土層の観察には、小出正忠・竹原秀雄編著1967『新版標準土色帖』日本色研事業株式会社を用いた。

6. 調査参加者は次のとおりである。

石原勇・井口富士雄・井口義雄・大井川安太郎・奥野豊次・棚田俊雄・棚田正男・中村俊雄
山田善之・吉田清三・荒井とよ・井口艶子・井口よし子・大井川あや子・大井川花枝・大島笑子
尾川澄子・片田敏子・川島芳江・大門そと・橋本華子・溝口秋子・溝口あさ子

水口浜子・山田きみ子・山道文子（現地作業員）

金森淑子・西川和美・西村倫子（現地測量補助）

安田富子・山村恵子（遺物整理作業）

目　　次

I 位置と環境	1	第4図 遺構配置図	7・8
第1図 位置と周辺の遺跡	1	第5図 遺構土層図	9
II 調査に至る経過	2	第6図 遺物実測図	10
第2図 調査区割図	2	図版1 検出遺構（1）	
第3図 遺跡の範囲と発掘調査位置	3	図版2 検出遺構（2）	
III 調査の概要	4	図版3 出土遺物（1）	
1. 調査の経過	4	図版4 出土遺物（2）	
2. 調査の方法	4	報告書抄録	
3. 14地区の概要	4・5		
IV まとめ	6		
参考文献	6		

I 位置と環境

富山県福光町は、石川県との県境をなす富山県の南西部端に位置し、県境には、養老三年（719年）、泰澄大師によって開山されたといわれる医王山をはじめとするなだらかな山脈が連なる。上平村と接する南側に位置する大門山に源を発する小矢部川が、町の中心部を南北に貫流し、その東を流れる山田川とともに、町の東北部から北に向かって広がる砺波平野を形成している。

梅原胡摩堂遺跡は、町北東部の梅原地内、小矢部川の支流である大井川と山田川に挟まれた河岸段丘上に位置する。一帯の標高は、70m前後を測る。梅原地内には、胡摩堂遺跡の他に梅原安丸・梅原出村・梅原上村・梅原落戸・梅原加賀坊・田尻・久戸の各遺跡が密集しており（第1図参照）、縄文時代から近世までつくづく梅原遺跡群を形成している。梅原安丸・梅原加賀坊・田尻・久戸の各遺跡は、東海北陸自動車道を建設する際発掘調査が行われ、12世紀中頃から18世紀にかけての大集落跡が発見された〔富文振1994〕。この南後方に、うずら山・宗守・竹林I・竹林II・東巖・徳成などの縄文時代を中心とした遺跡が存在する。また、梅原胡摩堂遺跡6・7地区からは弥生時代中期の土器・管玉・石鎧が出土し、梅原安丸III遺跡では古墳時代の堅穴住居跡1棟を検出しており〔福光教委1991・1994〕、原始時代から今日まで連続と人々が生活していたことがわかる。

文献資料では、古代には福光町の一部が砺波川上郷に含まれていたとされている。平安時代には川上村と呼ばれ官倉が置かれていたことが知られる。11世紀には円宗寺領石黒庄が成立し、当地域はそのうちの山田郷の一部に比定される。15世紀には、梅原地内に瑞泉寺の分家である梅原坊があった。



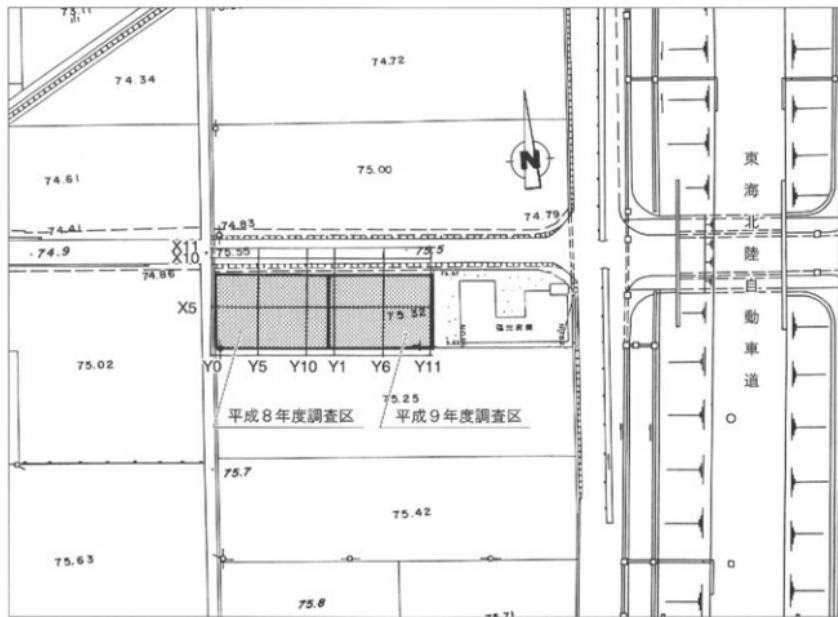
第1図 位置と周辺の遺跡

1. 梅原安丸遺跡
2. 梅原安丸II遺跡
3. 梅原安丸III遺跡
4. 梅原安丸IV遺跡
5. 梅原安丸V遺跡
6. 梅原出村II遺跡
7. 梅原出村III遺跡
8. 梅原上村遺跡
9. 梅原落戸遺跡
10. 梅原加賀坊遺跡
11. 梅原胡摩堂遺跡
12. 田尻遺跡
13. 久戸遺跡
14. 宗守遺跡
15. 宗守城跡・寺道敷遺跡
16. うずら山遺跡
17. 久戸東遺跡
18. 田屋川原古戰場
19. 田中遺跡
20. 佐道寺跡
21. 遊部跡
22. 常樂寺跡

II 調査に至る経過

福光町梅原地区においては、東海北陸自動車道の建設、低コスト化水田農業大区画ほ場整備事業の施工に伴い相次いで遺跡が発見され、地区内の約8割が埋蔵文化財包蔵地となった。現在においても、ほ場整備事業関連の発掘調査が梅原地区では、継続している。

福光産業株式会社は、東海北陸自動車道西側の側道沿い、梅原胡摩堂遺跡内中央西寄りに位置する。同会社の従業員駐車場は、社屋の西側約600m²部分を利用しておおり、田であったところに盛土を施し使用していたが、アスファルト舗装を施し雨天時の場合においても、使用に支障のないよう処理したいという要望が同会社からあった。しかし、同会社の周辺においては、ほ場整備事業関連の本調査が行われており、駐車場下にあたる部分にも、遺構の広がりが予想されたため、2か年度に分けて本調査を実施することとなった。本調査面積は、平成8年度が300m²、平成9年度が330m²である。



第2図 調査区割図(S=1/1,000)



第3図 遺跡の範囲と調査区位置図(1万分の1)

III 調査の概要

1. 調査の概要(第2図)

梅原胡摩堂遺跡は、東海北陸自動車道の建設に伴い昭和57年に県埋蔵文化財センターが行った分布調査で発見された。昭和63年には、自動車道路線部分にて県埋蔵文化財センターが試掘調査を行い、平成元年から同4年まで財團法人富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所が本調査を実施している。

ほ場整備事業に伴う胡摩堂遺跡の調査は、県埋蔵文化財センターの応援を受け町教育委員会が担当している。平成7年には、自動車道東側87.6haにて試掘調査を行った。翌8年度には、遺跡中央西寄りの11地区と中央東寄りの13地区の2ヶ所で本調査を実施。11地区は用排水路付け替え工事で1,035m²、13地区は田面削平工事で487m²を発掘した。また、胡摩堂遺跡中央部分を東西に通過する県営農道田中・梅原線整備・拡幅にともない、5年度から8年度にかけては合計3,470m²で本調査を実施した。

今回の調査は、福光産業株式会社駐車場部分約600m²を2つに分け、東側の約300m²を平成8年度に、西側の約330m²を9年度に調査を行った。

2. 調査方法

調査は、まず重機により、盛土及び耕作上の掘削除去を行った。その後、地区ごとに基準杭の設置及び調査区割を行った。調査区割は、調査区の形に応じておおむね南から北方向にX軸、西から東方向にY軸をとり、それぞれ2mを一区画としてアラビア数字でその位置を示した。

包含層の掘削・遺構検出・遺構掘削等は人力で行い、遺構平面図の作成は、ラジコンヘリコプターにより撮影した写真から図化した。

3. 14地区の概要

(1) 地形と層序(第2・3図)

14地区は、遺跡中央西寄り部分に位置する。地形は、河岸段丘上の端にあたり、標高は約76m前後である。

地表から地山面までの深さは平均約1mで、その間は2層に分かれ。①層は駐車場造成時の盛土である黄色砂層、②層は黒褐色土で現代の耕作土であり、地山層は黄色硬土である。中世等の遺物包含層は昭和30年代に実施された、ほ場整備によってかなり削平されたようである。

(2) 遺構(第4・5図・図版1・2)

中世の掘立柱建物跡1、土坑16、井戸23、溝10、ピット群がある。

C. 中世

掘立柱建物・SB01

9年度調査区中央に位置する。SK1-4に切られている。南北1間×東西2間の建物である。棟方向は北に対して約10度西へ傾ける。床面積は75m²以上になるとみられる。柱穴の掘方は30cm大の円形で、深さは50~60cmである。埋土は黒色粘質土に黄色土が混じったもので、礫層である地山に掘り込んでいる。出土遺物が無いため、詳しい時期はわからないが、切り合ひからも15世紀後半ごろとみられる。

土坑・SK02

8、9年度調査区に重なって、南側に位置する。南北7m以上×東西3m、深さ約40cmの不整形の土坑である。SE01を伴う。埋土は地山土ブロックの混じった黒色土である。出土遺物には、中世土師器、瀬戸美濃・天目茶碗がある。

SK04・05

8年度調査区、中央に位置する。ともに一辺3、4m正方形に近い形をしている。深さは40～50cm、SB09、06と井戸を伴う。埋土は地山土ブロックの混じた黒褐色土である。出土遺物はない。

SK10

9年度調査区東寄りに位置する。東西3m×南北2mの長方形の土坑である。深さは20～30cmとやや浅めである。埋土は地山土ブロックの混じた黒褐色土である。

SK14

9年度調査区中央に位置する。SB01を切っている。東西8m×南北4mの長方形の大型土坑である。深さは30～60cmであり、埋土は黒褐色土、黒褐色粘質土が大半を占める。出土遺物には、白磁・椀、瀬戸美濃・天目茶碗がある。16世紀前半とみられる。

SK15

SK14の南側に隣接し、14と同じく、SB01を切っている。一辺3mの正方形に近い形をしており、SE21を伴う。深さは約60cmで、壁面は垂直に立ち上がる。埋土は黒褐色土、黒褐色粘質土が大半を占め、地山土ブロックが混ざるが、最下層には黑色砂質土が堆積する。出土遺物には、中世土師器、白磁・椀がある。

SK16

9年度調査区西側に位置する。大部分が調査区外にあたるため、全容は分からぬが、南北に10mは伸びていることから、SK14と類似したものとみられる。SE23を伴う。深さは約50cmで、埋土は黒褐色土である。出土遺物には、石臼がある。

SE06・09

SE06はSK05内に位置する。直径約1mの円形を呈した素掘りの井戸である。深さは、約1.2mである。炭の混じった黒色土が堆積していた。瓦器の花瓶が出土している。SE09はSK04内に位置する。06と同じく、直径1mの円形の素掘りの井戸である。土師質のすり鉢が出土している。

SD02

9年度調査区を東西に横切っている。幅約80cm、深さ30～40cmである。埋土は黒褐色土であり、出土遺物には、珠洲、青磁、茶臼がある。

SD07

9年度調査区北東隅に位置する。7年度農道調査のSD10と対応する。

(3) 遺物(第6図・図版3・4)

縄文時代、奈良・平安時代、中世、近世のものがある。

A. 中世

SK02(1～3)

1は土師器、2、3は瀬戸美濃・天目茶碗である。

SK14 (4・5)

4は白磁の椀、5は瀬戸美濃の天日茶碗である。

SK15 (6~8)

6、7は土師器、8は白磁・椀である。

SD02 (9・10・32)

9は珠洲・すり鉢、10は青磁椀の底部である。32は茶臼である。石材には、柔山石を使用している。

SD03・06・07 (11~13・18)

11は上師器、12は瀬戸美濃・天目茶碗、13は唐津、18は越前・甕である。

SE06・07 (14・15)

14は瓦器の花瓶、15は土師質の鉢である。

P3・27 (16・17)

16は白磁・椀、17は越前・甕である。

包含層 (19~29)

19は土師器皿である。20・21は白磁の椀、22は青磁の椀底部である。23は珠洲・すり鉢、24は土師質のすり鉢、25は瀬戸美濃・壺である。26は瀬戸美濃の皿、29は越中瀬戸のすり鉢である。

IV まとめ

1. 今回の調査地区においては、掘立柱建物や構は少なく、大型の土坑とそれらに伴う井戸が目立った。
2. 出土遺物には、石斧、須恵器など中世以前のものも数点出土していたが、主体は中世以降であり、特に中世後半の15世紀後半から16世紀前半にかけてのものが多かった。
3. 今回の調査地区北側は、県営農道整備事業関連で調査済みの箇所であり、寺内町の一部と考えられる。今回の調査においても、仏具に関係した遺物、お茶に関連のある遺物が出土したことからも、検出した遺構も寺内町関連のもので、特に土坑はなんらかの作業場的役割を果たしていたものと考えられる。

参考文献

桂書房 1997『中・近世の北陸』

財団法人 富山県文化振興財團 1994『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告(遺構編)』

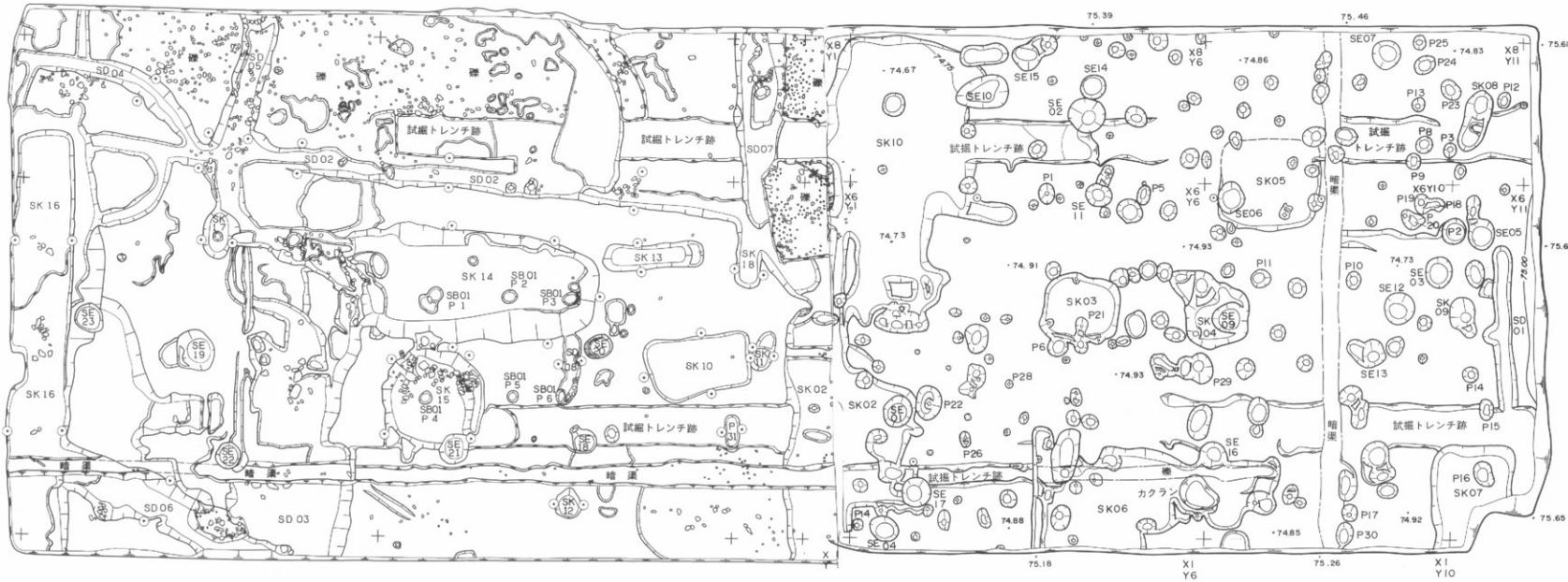
財団法人 富山県文化振興財團 1996『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告(遺物編)』

福光町教育委員会 1996『富山県福光町梅原胡摩堂遺跡群Ⅲ』

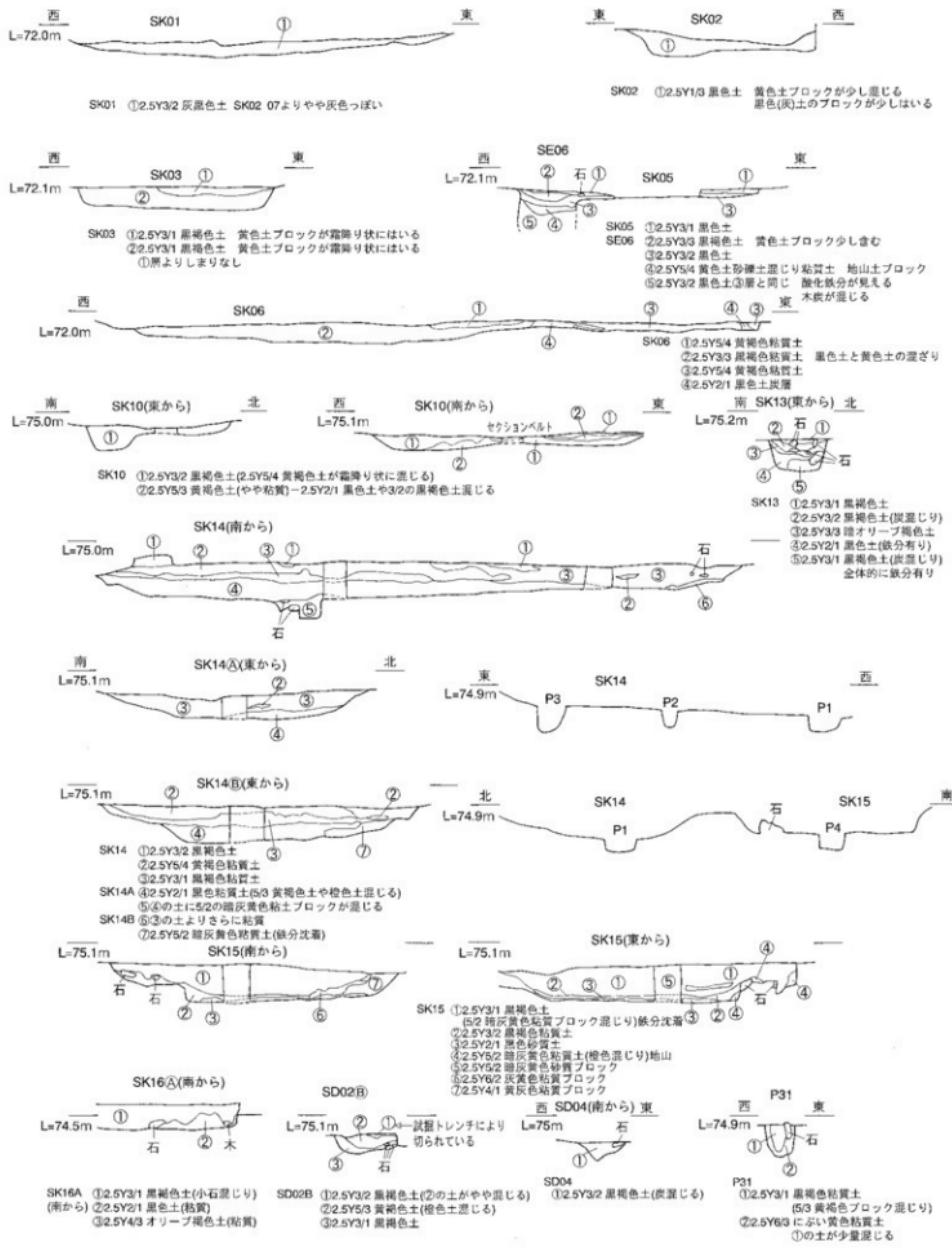
福光町教育委員会 1997『富山県福光町梅原加賀坊遺跡Ⅰ・梅原胡摩堂遺跡群Ⅰ・梅原落戸遺跡群Ⅳ』

・梅原安丸遺跡群Ⅲ』

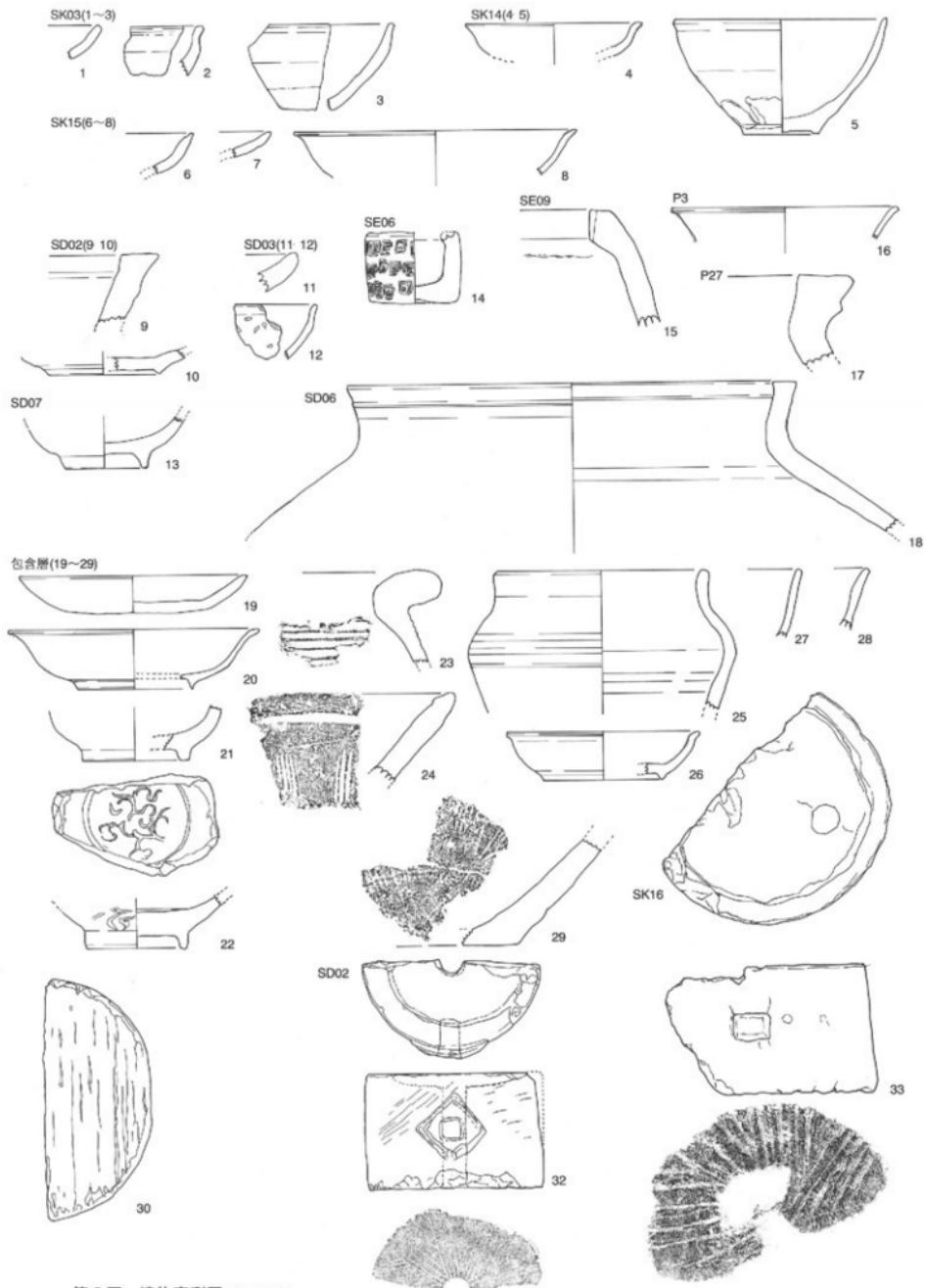
福光町教育委員会 1997『富山県福光町梅原胡摩堂遺跡群Ⅴ』



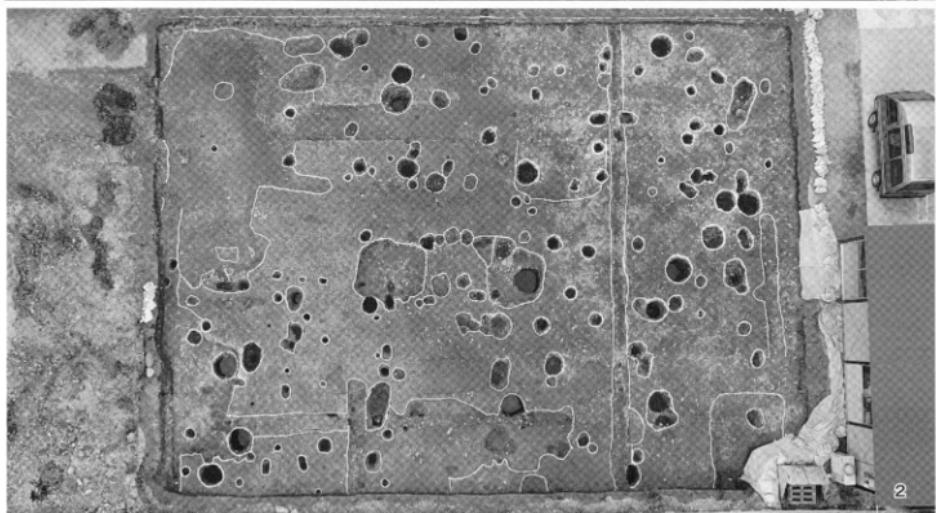
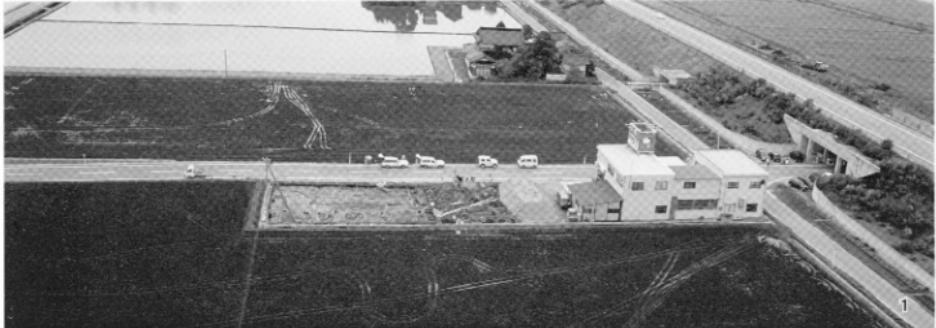
第4図 遺構配置図



第5図 遺構土層図 ($S = 1/60$)

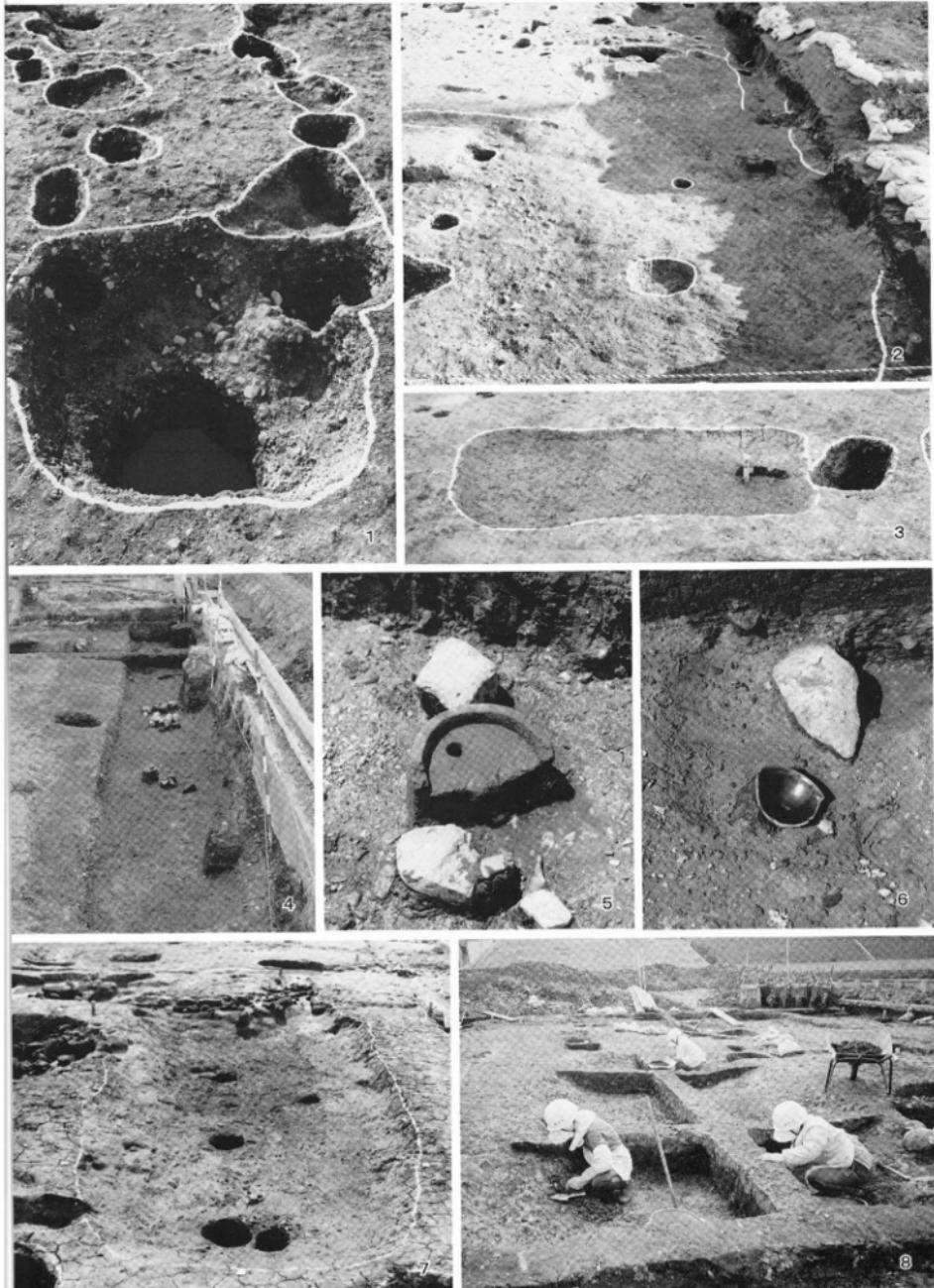


第6図 遺物実測図 (1 : 3)



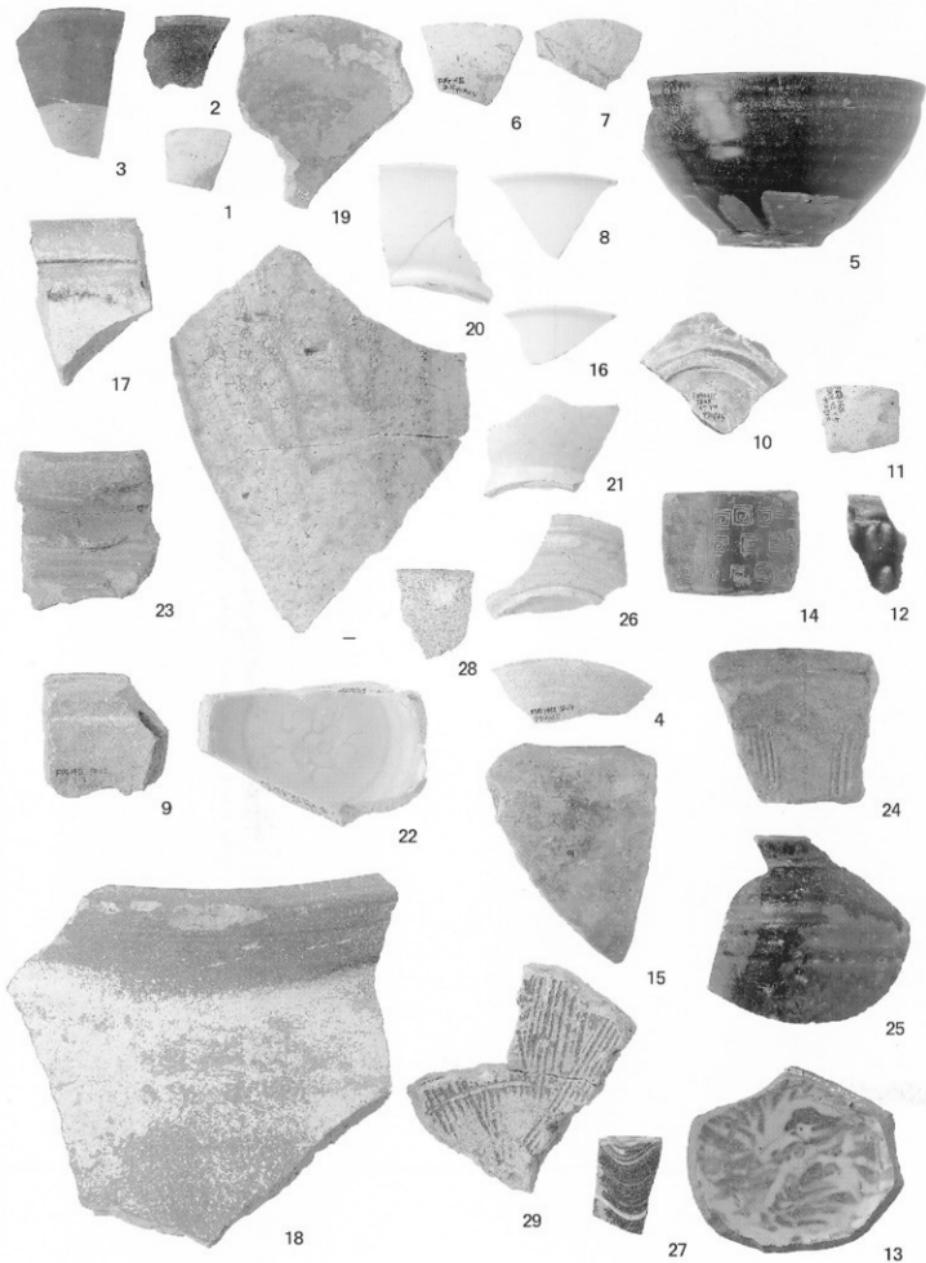
図版1 検出遺構(1)

1. 調査区全景(南から) 2. 平成8年度調査区 3. 平成9年度調査区



図版2 検出遺構(2)

- | | | | |
|-------------------|-----------------|--------------|--------------|
| 1. SK04・SE09(東から) | 2. SK10(北から) | 3. SK13(南から) | 4. SK16(北から) |
| 5. SK16: 石臼出土 | 6. SK14: 天目茶碗出土 | 7. SK14(東から) | 8. 作業状況 |



図版3 出土遺物(1) (1 : 3)



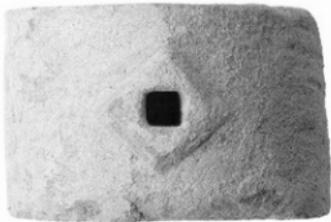
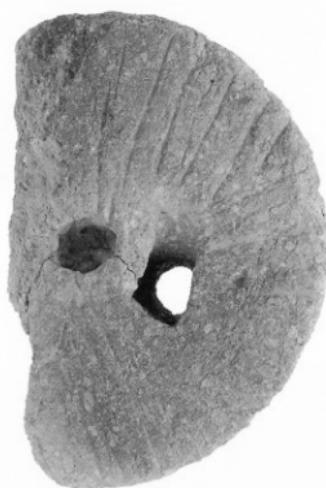
30



31



(1:1)



32



33

図版4 出土遺物(2) (1:3)

報告書抄録

ふりがな	とやまけんふくみつまちうめはらごまどういせき						
書名	富山県福光町梅原胡摩堂遺跡						
副書名	民間会社駐車場造成に先立つ発掘調査						
編著者名	佐藤聖子						
編集機関	福光町教育委員会						
所在地	〒939-1692 富山県西砺波郡福光町荒木1550 TEL (0763) 52-1111						
発行年月日	西暦1998年3月25日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	北 緯	東 経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
梅原胡摩堂	富山県 福光町梅原	16421	36度33分 20秒	136度54分 20秒	960819 ~960928 970408 ~970520	300m ² 330m ²	民間会社 駐車場 造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
梅原胡摩堂	集落	縄文時代 奈良・平安時代 中世、近世	掘立柱建物、土坑、 井戸、溝	土師器、須恵器 中世土師器、珠洲、青磁、 白磁、越前、越中瀬戸、 瀬戸美濃、瓦器、桶底板、 漆器、石臼、茶臼			

民間会社駐車場造成に先立つ発掘調査

富山県福光町梅原胡摩堂遺跡

平成10年3月25日

編集 福光町教育委員会
富山県埋蔵文化財センター

発行 福光町教育委員会

印刷 創ナカダ印刷

